

写真展「ここに生きる、ミャンマー難民と山岳民族の今日～大学生の人生を変えた、9日間の記録」

立命館大学国際関係学部「Hay Hay AungSan」メンバー5人の感想

---

足を運んでくれた皆さんが本当に優しく、かっこよく、尊敬できる方々で、それぞれの視点で語ってくれる時間が何より楽しかったです。

国際問題は、明日明後日に解決するような簡単なものではありません。だからこそ、まずは「関心を持つ」という入り口に立ってくれたこと、そしてわざわざ会場まで来てくれたというその「優しさ」が、停滞した現状を動かす一番の原動力になると信じています。

まずは目の前の現実を一緒に考え続けること。そんな温かい繋がりを、これからも大切にしていきたいです。

—和田 嶺

---

5日間本当に充実していました。来場者の皆さまに自身の経験をお話しする中で、当時感じたこと・考えたことを整理しながら、新たな興味や疑問が湧きました。さらには、皆さまの経験や知見を伺うことで、私自身も多くを学ばせていただきました。

昨今の排外主義の高まりに心を痛めていましたが、今回の写真展を通して海外の問題に関心を持ち、また日本に暮らす外国籍の方々に寄り添おうとする人々がこれほど多くいることを実感しました。そのことが、今後の活動や国際協力への道を歩む上で大きな後押しとなりました。今回ご協力いただいたミャンマーKOBEの皆さま、兵庫県国際交流協会の皆さま、本当にありがとうございました。

—岸本杏菜

---

最高でした！！

みんな真剣に写真を見て、質問もしてくれて、そんなもっと知りたいと思ってくれた姿勢に感無量でした。

まだまだ大きなアクションを起こすほどの力は持ち合わせていませんが、こんな風に少しずつ良い方向に向かって歩を進めさせることが、今の自分たちができる国際協力のあり方の一つだなと感じました。

本当にありがとうございました！！

—森 優斗

---

---

この写真展の5日間は、未来につながる時間だったと感じています。  
私達が現地で知った現実や感情をミャンマー-KOBE の皆様や来場者の皆様と共有  
できたことで、私達が実際に足を運んだことの意義がさらに深まった気がして  
います。

この輪を少しずつでも広げていけば、ちっぽけに見えるような行動もより良い  
未来を築く大きな一歩に繋がっていくと私は信じています。素敵な機会をくだ  
さり、ありがとうございました！

—三原静香

---

写真展の期間中、多くの方にご来場いただき、作品を通して皆様と多様な思いや  
意見を交わすことができました。

当初、この写真展は「国際協力を考えるきっかけ」を提供することを目指してい  
ましたが、実際にはすでに高い関心を持つ方々が多く、皆様の貴重なご経験を伺  
うなかで私自身が学ばせてもらう場面が多々ありました。

まさに「双方向」な対話の場となったことで、私自身の国際協力に対する考えも  
より深まったと感じています。このような貴重な機会をいただき、本当にありが  
とうございました！

—朝倉康太

---